



涌小通信

知内町立涌元小学校
～重点教育目標～
主体的・対話的に学び、
自らを磨き、高め合う子
令和2年2月28日発行

「子ども食堂」をご存じですか ～子ども食堂の取組から子どもの貧困を考える～

校長 三上 幸喜

皆さんは「子ども食堂」って聞いたことがありますか。「子ども食堂」がどんな活動を行っているかご存じでしょうか。NPO法人（特定非営利団体）が運営する「子ども食堂」が全国各地で開設されていますが、私は具体的な活動について全く知りませんでした。

単純に、「子ども食堂」は経済的な困窮によって十分に食事をとることが出来ない子どものために食事を提供する場と思い込んでいました。しかし、「子ども食堂」を運営するNPO法人『インクルいわて』理事長の山屋理恵さんの報告を聞き、そこには子どもが直面している社会の問題があることを知りました。

昨年12月14日（土）函館市で開催された『早寝早起き朝ごはんフォーラム in ほっかいどう』での山屋さんの報告の概要を紹介します。

『インクルいわて』は、家族のカタチにかかわらず、誰もが生き生きと暮らしていける包摂された社会（inclusive Society）の実現に向けて一緒に活動します。をビジョンに掲げ、①子育て支援 ②就労支援 ③生活支援を三本柱として活動しています。当事者支援と地域づくりを両輪にして、**「誰もが孤立しないしくみをつくる。」**を目標に掲げています。「子ども食堂」の他、様々な活動を通して見えてきたものは、



- 家族と雇用システムの変容によって、人と人のつながりが弱体化し、新たな「社会的孤立」が課題となってきている。
- 現代の貧困は「経済的貧困」と「社会的孤立」がある。子どもの貧困対策には、適正な「社会的相続」（自立する力の伝達行為）と「非認知能力」（意欲、自制心、やり抜く力、社会性等）を高めることが必要である。
- 家族が担うと期待された機能を、家族以外の人や社会保障等で補完しなければ、人々は孤立し、排除され、分断され、縮小し、社会が解体する。しかし、昔に戻るのが解ではない。

貧困は、経済的貧困だけではなく、人を「社会的孤立」に追い込み、居場所さえも奪い、人間が生きていくうえでの精神的な豊かさ「安心感」「人とのつながり」「自尊心」「希望」「安定したい場所」を奪う。と提言され、誰もが孤立しない地域をつくるしくみが必要であり、そのしくみの一つが「子ども食堂」です。と述べていました。

こうした社会の「困難さ」の姿はますます見えにくくなり、社会的な弱者である高齢者や子どもに重くのしかかっていると思いました。学校と保護者、地域が一体となり、精神的な豊かさである「安心感」「人とのつながり」「自尊心」「希望」「安定したい場所」を確保するために努力していかなければならない。**そのために学校は、子どもの「学力」と「非認知能力」（学力以外の意欲、自制心、やり抜く力、社会性など）を高め**ていかなければならないと義務教育の責務を強く感じました。

<新型コロナウイルスの感染拡大防止のために>

27日（木）から8日（日）まで臨時休業の措置が執られています。この期間も各家庭において児童の健康観察と検温の継続をよろしくお願いいたします。また、発熱や咳症状等が見られた場合には学校まで連絡下さい。保護者の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。学習への取り組みもよろしくお願いいたします。